

# 雨上がりの川

森沢 明夫 作

オカヤイツミ 画

(165)

## 第六章 それぞれのモノローグ(21)

### 【紫音の話】

「人間の頭のとっぺんにはね、いわゆる百会ひゃくえっていうツボがあるのね。ちよつどこのあたり」そう言つて、わたしは春香はるかの頭頂部に触れた。「いい？ こころは宇宙エネルギーの出入り口でもあるの。いまから、この百会を通して宇宙エネルギーを注ぎ込むからね」

「はい……」  
「そうすると、春香ちゃんのチャクラが開いていくから」

「チャクラ？」

「そう。簡単に言つと、宇宙エネルギーを溜められる場所のこと。チャクラがある場所は、身体に七箇所あるの。上から順番に言つと、まずは百会のある頭頂部、次が、いわゆる第三の目が開くと言われる眉間のあたりね。そして喉、胸、鳩尾みぞおち、下腹部、尾骨の七つ。これからわたしが春香ちゃんの頭の上に手を当てて、宇宙エネルギーを強く注ぎ込むと、上のチャクラから順番にエネルギーが溜まっていつて、それが風船みたいに膨張して、最後はポンツで破裂するみたいになるから。それがチャクラの解放。解放したところから、能力が開花して



いくの。で、これを七つ全部やつていくからね。分かった？」

「は、はい……」

春香は自信なさげに返事をした。

それも当然だろう。いきなりこんな専門的なことを言われても、ちんぷんかんぷんに違いない。でも、むしろ、こちらとしてはその方が都合がいいのだけれど。

「呼吸、整つたみたいね」

「はい、多分」

「それじゃ——」

「あつ、あの」

「なに？」

「痛いとか、苦しいとか——」

「あはは。大丈夫よ。春香ちゃん自身は、ほとんど何も感じないから。人によつてはチャクラのあるところがポカポカあつたかくなったり、ポンツで解放した瞬間に違和感を覚えてビクツとなる人もいるけど、痛みとかはないからね」

「よかつた……」

ホツとため息をついた少女の頭に、わたしは右手をのせた。

「じゃあ、行くよ」

「はい」